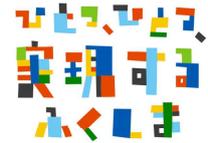


主要な農作物の生育情報

令和5年度 第6号

(令和5年9月11日)

福島県農林水産部農業振興課



【作物】

1 水稻

農業総合センター（本部、会津地域研究所、浜地域研究所）の作柄解析試験では、出穂期は平年並から5日早まっています。8月の気温が高く経過したため成熟期は早まる見込みです。なお、刈取始期の目安となる出穂後の積算気温1,000℃の到達日は平年の成熟期より早い予想です。

また稈長が伸びた「ひとめぼれ」や「コシヒカリ」では、倒伏が発生しています。

表1 水稻主要品種の出穂期（本年値）と成熟期（予測）

調査場所	品 種	移植期 (月日)	出穂期			積算気温 1,000℃	成熟期
			本 年 (月日)	平 年 (月日)	平年差 (日)	本 年 (月日)	平 年 (月日)
本 部	ひとめぼれ	5.15	7.31	8.3	-3	(9.7)	9.13
	天のつぶ	5.15	8.3	8.5	-2	(9.10)	9.14
	コシヒカリ	5.15	8.6	8.11	-5	(9.14)	9.25
会津地域 研 究 所	ひとめぼれ	5.18	7.29	7.29	0	(9.2)	9.11
	天のつぶ	5.18	7.31	7.31	0	(9.4)	9.13
	コシヒカリ	5.18	8.3	8.4	-1	(9.8)	9.17
浜 地 域 研 究 所	ひとめぼれ	5.10	7.29	7.31	-2	(9.3)	9.12
	天のつぶ	5.10	7.30	8.2	-3	(9.5)	9.21
	コシヒカリ	5.10	8.5	8.9	-4	(9.12)	9.26

注1) 調査場所は、本部が郡山市、会津地域研究所が会津坂下町、浜地域研究所が相馬市

注2) 平年は、前5カ年（2018～2022年）の平均値

注3) 積算気温1,000℃の欄は、本部がアメダス郡山、会津地域研究所がアメダス若松、浜地域研究所がアメダス相馬における出穂後の日平均気温積算値1,000℃到達日を示す。9月3日まで本年値、9月4日以降は平年値を用いた。

2 大豆

農業総合センター（本部、会津地域研究所、浜地域研究所）の作柄解析試験では、開花期は平年より1日から8日早くなりました。開花期以降の高温、小雨のためほ場が乾燥し、生育抑制や着莢数の減少が発生しています。

表2 大豆の生育ステージ

調査場所	品 種	播種期 (月日)	出芽期 (月日)	5葉期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 [月日]
本 部	タチナガハ	6.1 (+1)	6.8 (-5)	7.2 (-4)	7.22 (-5)	[10.27]
	あやこがね	6.1 (+1)	6.8 (-4)	6.29 (-6)	7.22 (-4)	[10.20]
	里のほほえみ	6.1 (+1)	6.8 (-4)	7.2 (-4)	7.22 (-5)	[10.28]
会津地域研究所	あやこがね	6.1 (0)	6.9 (-2)	7.6 (+1)	7.23 (-1)	[10.14]
	里のほほえみ	6.1	6.9	7.6	7.23	
浜地域研究所	タチナガハ	6.6 (-5)	6.13 (-6)	7.7 (-7)	7.26 (-7)	[10.23]
	里のほほえみ	6.6 (-5)	6.13 (-4)	7.7 (-6)	7.25 (-8)	[10.23]

注1) 調査場所は、表1に同じ

注2) ()内の数値は平年差日数、[]内の数値は平年値

注3) 平年は、前5カ年（2018～2022年）の平均値（会津地域研究所の里のほほえみはなし）

【野 菜】

1 きゅうり

県北地方の雨よけ栽培や県中地方の露地栽培では、高温・乾燥の影響により草勢が低下し側枝が弱いほ場が見られ、曲がり果や尻細果・尻太果等の発生が増加しています。抑制栽培では、8月上旬から収穫が始まっていますが、側枝が弱くなっています。

害虫は、アザミウマ類やハダニ類、チョウ目等が多く発生しています。

2 夏秋トマト

県南地方の4月定植の作型では、収穫中で、14～15段花房が開花しています。南会津地方の5月下旬定植の作型では、6段果房の収穫中で、12段花房が開花し、生育は平年よりやや進んでいます。高温・乾燥の影響により草勢低下や落花、果実は小玉傾向にあり、日焼け果、着色不良果、裂果が多く発生しています。

病害は、灰色かび病等が見られ、害虫は、コナジラミ類やオオタバコガ等が増加しています。

3 さやいんげん

4月定植の作型は収穫が終了し、5、6月播種の作型が収穫されていますが、高温・乾燥の影響により落花や奇形莢が多く発生しています。また、7月播種の作型では、乾燥により発芽率が悪く、まき直しされているほ場が多く見られています。

害虫は、ハダニ類が多く発生しています。

4 夏秋ピーマン

県中地方のトンネル栽培では14節、露地栽培では11節が収穫されており、平年より生育が進んでいます。高温・乾燥の影響により日焼け果や尻腐果等が多く発生しています。

病害虫は、斑点病、アブラムシ類、ホコリダニによる果実被害が散見されています。

【果 樹】（9月5日現在：農業総合センター果樹研究所）

1 もも

「川中島白桃」の収穫盛期は8月16日で平年より9日早く、昨年より2日早くなりました。

果実の大きさは359gで平年並、糖度は14.8° Brixで平年より高くなりました。

「ゆうぞら」の収穫盛期は8月25日で平年より8日早く、昨年より2日早くなりました。

果実の大きさは383gで平年より大きく、糖度は13.4° Brixで平年並でした。

2 なし

「幸水」の収穫盛期は8月20日で平年より9日早く、昨年より7日早くなりました。

果実の大きさは451gで平年より大きく、糖度は12.5° Brixで平年並でした。

「豊水」の満開後145日における成熟調査では、果実硬度が6.9ポンドで平年より高く、糖度が13.0° Brixで平年並、果皮中クロロフィル含量は5.9 μ g/cm²で平年より多い状況です。

「豊水」の果実肥大は暦日で比較すると、縦径が85.8mm（平年比113%）、横径が97.1mm（平年比112%）と平年より大きい状況です。満開後日数の体積指数による比較でも平年より大きくなっています。

3 りんご

「つがる」の収穫盛期は8月28日で平年より3日早く、昨年より1日遅くなりました。満開日からの成熟日数は136日で平年より11日遅くなりました。果実の大きさは299gと平年よりやや大きく、糖度は14.6° Brixと平年より高く、硬度は10.9ポンドと平年より低くなりました。

「ふじ」の果実肥大は暦日で比較すると、縦径が78.6mm（平年比109%）、横径が85.4mm（平年比108%）と平年よりやや大きい状況です。満開後日数の体積指数による比較でも平年よりやや大きくなっています。

【花 き】

1 キク類

8月咲きの切り花盛期は8月1半旬から2半旬で、概ね平年並でした。草丈も、概ね平年並でした。

9月咲きの生育は、草丈が概ね平年並で、十分な切り花長を確保できる見込みです。また、8月上旬頃に発蕾を確認し、9月1半旬から出荷が開始されており、9月2半旬頃から出荷量が増える見通しです。品種によっては、やや開花の遅れる傾向が見られており、高温の影響によるものと考えられます。

病害虫は、害虫の発生が目立ち、ハダニ類、アザミウマ類、アブラムシ類、オオタバコガの発生が散見されています。

2 リンドウ

8月盆向け早生品種の切り花盛期は8月1半旬で、やや早くなりました。草丈は、平年並でした。

9月彼岸向け中晩生品種の生育は、草丈が平年並で、十分な切り花長を確保できる見込みです。また、開花時期も概ね平年並の見通しで、9月1半旬頃から出荷が始まっており、9月4半旬にかけて出荷が続く見通しです。ただし、品種によっては、開花時期の前進または遅延が生じています。

病害虫は、葉枯病の上葉への発生が見られる他、黒斑病、褐斑病、アザミウマ類、ハダニ類、オオタバコガの発生が見られています。

【飼料作物】

1 牧草

3番草の生育期で、生育はほぼ平年並です。8月下旬から収穫・調製が行われています。

2 飼料用トウモロコシ

生育は平年並です。8月下旬から収穫・調製が行われています。

3 W C S用稲

8月中旬から収穫・調製が行われています。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>）等を活用し、適切に対応しましょう。

☆ 農作業事故を防止しましょう！

暑い日が続きますので、体調管理に十分留意し熱中症対策をしっかりと行い、農業機械の操作にも注意しましょう。

降雨が多くなっている地域では、地盤が緩み、崩れやすくなっているところがありますので、ほ場点検を行ってから作業を開始しましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7344

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html>